

令和4年
県民歯科健康状況実態調査報告書



大 分 県

はじめに

生涯にわたり健康で豊かな生活を送ることはすべての県民の願いです。

歯・口腔は「よく噛んでおいしく食べる」ことはもとより、「会話を楽しむ」「すてきな表情を作る」等、人生を豊かにする大切な機能も持っています。また、歯・口腔の健康は、全身の健康との関連性も指摘されており、健康で豊かな生活を送る上で、重要な役割も果たしています。

このため、県では平成25年3月に大分県歯科口腔保健計画「新・歯ッスル大分8020」改訂版を策定し、この計画に基づき歯・口腔の健康づくりに取り組んできました。

今回、現計画の評価と次期計画の基礎資料とするため、令和4年度に実施した「県民歯科健康状況実態調査」の結果を取りまとめました。

今後は、この調査結果を各市町村や保健所、学校、職域などの関係の皆さまにも御活用いただき、県民の歯・口腔の健康づくりの推進に役立ててもらえれば幸いだと考えております。

終わりに、本調査の実施にあたり、ご協力いただきました県民の皆さまや関係者各位に深く感謝申し上げます。

令和5年7月

大分県福祉保健部

健康づくり支援課

目 次

はじめに

I 調査の概要

第1 調査の概要	1
第2 調査の事前準備	2
第3 調査の実施及び審査基準	3
第4 調査票記入要領	7
第5 調査票様式	8

II 調査結果

1 被調査者の概要	9
2 現在歯の状況	11
3 むし歯の状況	16
4 歯周組織の状況	23
5 口腔清掃の状況	30
6 口腔内の自覚症状	37

III 県民生活習慣実態調査の概要 43

IV 県民生活習慣実態調査結果（歯科関連項目）

1 回答者属性	45
2 たばこと歯周病（歯槽膿漏）との関連	46
3 現在歯数	47
4 食事をかんで食べる時の状態	48
5 フッ化物とむし歯予防との関連	49
6 歯間部清掃用具の使用状況	50
7 定期的な歯科健診の受診状況	53

V 調査結果（平成 28 年度との比較）	
1 1人平均現在歯数	55
2 60歳で24本以上、80歳で20本以上の自分の歯を有する者の割合	55
3 1人平均健全歯数	55
4 むし歯有病者率	56
5 1人平均むし歯本数（DMF 歯）	56
6 未処置歯を持つ者の割合・1人平均未処置歯数	56
7 喪失歯のある者の割合・1人平均喪失歯数	57
8 インプラントを有する者の割合	58
9 4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合	58
10 口腔清掃状態が不良な者の割合	58
VI 県民生活習慣実態調査結果（平成 28 年度との比較）	
1 たばこと歯周病（歯槽膿漏）との関連	59
2 現在歯数	59
3 何でもかんで食べることができる者の割合	59
4 フッ素がむし歯予防に効果があると答えた者の割合	60
5 歯間部清掃用具を使用している者の割合	60
6 定期的に歯科健診を受けている者の割合	60
VII 大分県歯科口腔保健計画の目標値に対する実績値	61